

2. 夏の暑さ対策について

(1) 小学校の普通教室にエアコン設置を求めて

【答弁】

大阪管区气象台によりますと、21世紀末における真夏日の年間日数は、20世紀末に比べて40日近く、猛暑日の年間日数は20日近く増加すると予測しており、子どもたちが学び生活する学校施設の暑さ対策、熱中症対策は重要な課題となっております。

本市の学校施設の暑さ対策としては、小・中学校の普通教室への扇風機の設置や直射日光を遮る緑のカーテン、校庭へのテントの設置、ミストファンによる冷却効果など、様々な対策を講じるとともに、子どもたちには、こまめな水分補給など、体調管理の注意喚起を促し、文部科学省が学校環境衛生基準で望ましいとしている30度以下の学習環境に努めてまいりました。

近年では、ヒートアイランド現象や温暖化が進む状況にあるため、中学校においては、より良い学習環境を確保するため、昨年度から普通教室などへのエアコン設置を年次計画により進めているところでございます。今年度には、中学3年生の普通教室でエアコンの使用が始まり、生徒や教師からは、「授業への集中力が格段に保てるようになった、体力の消耗度が違う、エアコンに助けられる」といった学習効果の向上が期待できる反響がありました。

小学校普通教室のエアコン設置につきましては、子どもたちの成長過程において体温調節能力や、忍耐力が落ちるといった懸念もあり、様々な議論はありますが、健康面や授業に集中し取り組める環境づくりなどを考えますと、中学校と同様に必要な設備と考えております。また、大阪府内においても、小学校にエアコンを整備する市町村も増えてきている状況でございます。

しかしながら、小学校普通教室に空調設備を整備するには、中学校よりも普通教室数が2倍以上あり、受変電設備の大規模な整備や校舎建物の配置の関係で事業費がかさみ、概算ではございますが、約12億円と莫大な財源が必要となります。そのため、国における交付金や地方債の活用は不可欠となりますが、国の財政状況によっては交付金の不採択の場合もあることから、財源の確保は重要な課題でございます。

また、エアコンの設置以外にも学校施設の整備として、非構造体の耐震化や大規模なトイレの整備、老朽化した外壁・屋上防水の改修など、引き続き取り組まなければならない事業も多くございます。

教育委員会といたしましては、小学校普通教室へのエアコン整備について、設置費用や維持管理費用、設置順序などの課題もございますが、国に対して、事業が円滑に実施できるよう補助事業の確実な採択、及び補助率の拡充を図るよう要望し、中学校のエアコン設置後の早期導入に向けて、引き続き検討してまいります。